



西山富三郎議員

大山恵みの里づくり計画

重く受けとめ実現したい

問 大山恵みの里づくりプロジェクト推進会議から計画が提出された。

(1) 赤川哲夫委員長は巻頭に「社会の一隅を照らしながら、次代に引き継いでいただくよう念願するものです」と書いている。どう受け止めているか。
(2) 計画の基本姿勢に品質革新・資源提携・公民協働の三つの柱がある。公民協働の認識をどう広めるか。

答 (山口町長)

(1) 赤川哲夫委員長の一文は、人や自然に思いやりを持ちながら、みんながその理念を共有し、一つの目標に向かって行動する心がけにより素晴らしい町ができると言っていると受け止めている。一年間のプロジェクト会議を通じて強く感じられたのではないかと思っ

集中改革プランの公表

18年度中に公表する

ている。最高責任者として重責を全うされた赤川委員長の意志を重く受け止め、計画の実現を目指したい。
(2) 公民の「公」は「官」より広い意味であり、商工会や観光協会、福祉協会あるいはNPO法人などの公共性や公益性を発揮する組織団体を含むものを考えている。

町づくりは、地域住民や地場企業などと密接に関わりがある中間組織ともいべき組織が果たす役割は益々重要になると考えており適切な表現だと思っている。
本計画を周知するため概要版を作成し全戸配布したりフォーラムの開催も予定している。

問 国は「地方公共団体における行政改革のための新たな指針」に基づき、平成17年度から平成21年度までの「集中改革プランの公表」を求めている。これからの地方公共団体は、地域のさまざまな力を結集して「新しい公共空間」を形成するための戦略本部となり、行政自らが担う役割を重点化していくことが求められている。どう取り組んでいるか。

答 (山口町長)

鳥取県は全国唯一集中改革プランの策定時期、内容を公表していない。大山町では、18年度中の公表に向け「大山町行政改革審議会」の場で審議をしている。委員定数は15名以内であるが現在11人を委嘱している。
※集中改革プラン：地方公共団体の行政改革の具体的な取り組み

オオサンショウウオの観察施設

関係機関と協議中

問 町内には特別天然記念物であるオオサンショウウオが生息している。

時折、用水路などで保護されることがある。生息地は岐阜県以西の一部に限られており、中国山地は生息地として有名である。
わが町にはこのように素晴らしい自然環境が残っていることを知り、郷土の自然に親しみや愛着を持ち、守っていく意識や態度を子どもたちから育てることが重要である。

うか。
答 (山田教育長)
オオサンショウウオの本物を見たことのない子どもたちが多くいる。所轄する官庁の許可を経て、観察施設ができないかということを現在文化庁や県教育委員会文化課と協議を重ねている。全国の小学校でも公民館でオオサンショウウオを飼育している学校は例を見ないようである。わが町に生息するオオサンショウウオを子どもたちに見て学んで欲しいと思っている。



オオサンショウウオは1mを超える世界最大の両生類です。